

2025年度入試

入学試験問題集

【応用心理学部 健康・スポーツ心理学科】



東京成徳大学

TOKYO SEITOKU
UNIVERSITY

目 次

総合型選抜 9月入試 小論文	1
総合型選抜 10月入試 小論文	4
総合型選抜 12月入試 小論文	5
学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試） 小論文	7
スポーツ特待生入試 小論文	9
編入学試験	10
一般選抜 D日程入試 小論文	11
出題意図・解答例	12

※一般選抜 C 日程入試は、志願者がいなかったため、実施していません。

「一般選抜 A 日程・B 日程」の問題は、
「2025 年度入試問題集 一般選抜
A 日程入試・B 日程入試・C 日程入試」
に掲載しています。

●総合型選抜 9月入試

【小論文】（試験時間：60分）

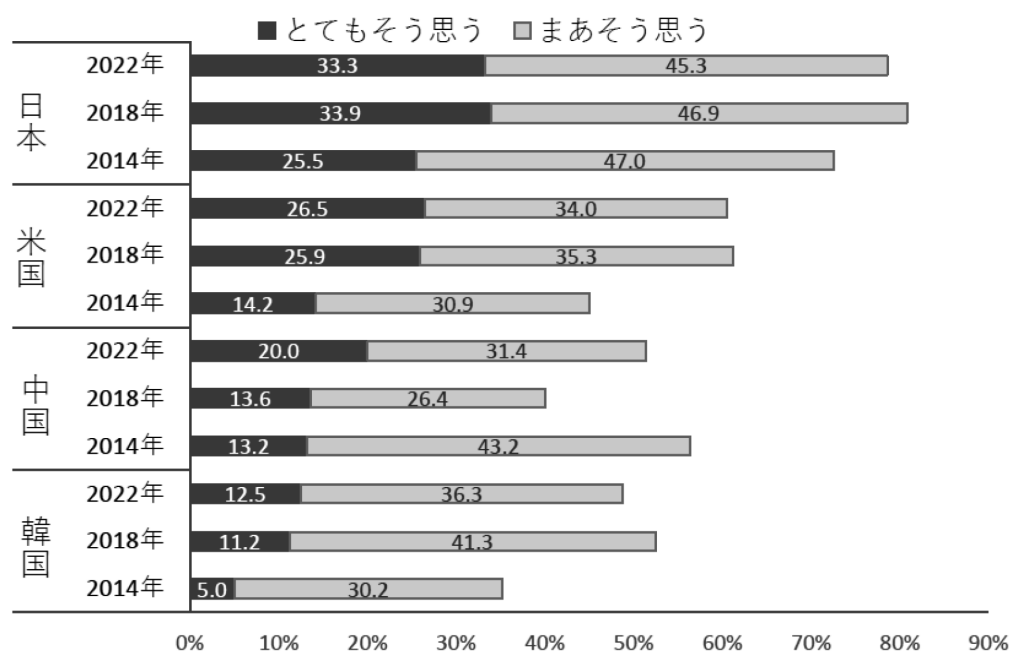
次のページ以降に示す図および文章（資料1～資料5）は、日本、アメリカ、中国、韓国の高校生を対象に、2022年に実施された調査の報告書からの抜粋である。これらの資料から読み取れることを踏まえながら、次の問いに解答しなさい。なお、問いは「設問1」と「設問2」に分かれている。それぞれの設問の内容をよく読んで、順に解答すること。

設問1 次の指示にしたがって、あなたの考えを200字以内で具体的に論じなさい。

次に示す4つの図（資料1～資料4）は、最新（2022年）の調査結果と、過去に行われた同様の調査の結果を比較したもの的一部分である。これらの4つの図（資料1～資料4）から読み取れる情報をもとに、あなたが考える「今日の日本の高校生の課題」について、具体的に考察しなさい。

なお、設問1では、4つの図（資料1～資料4）の内容の説明にとどまらないように留意すること。また、設問1では、資料5は参考せず、資料1～資料4のみを参照して論述すること。

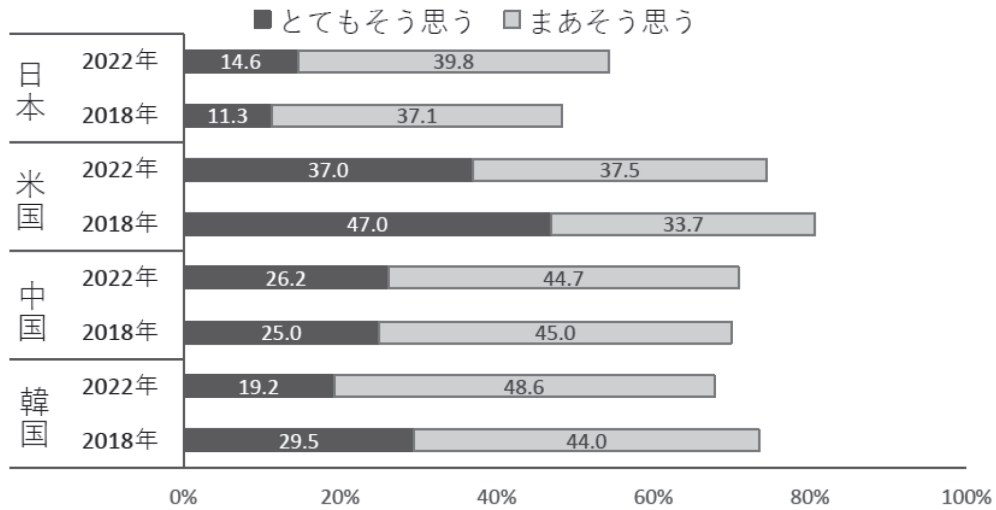
▼資料1 「自分はダメな人間だと思うことがある」



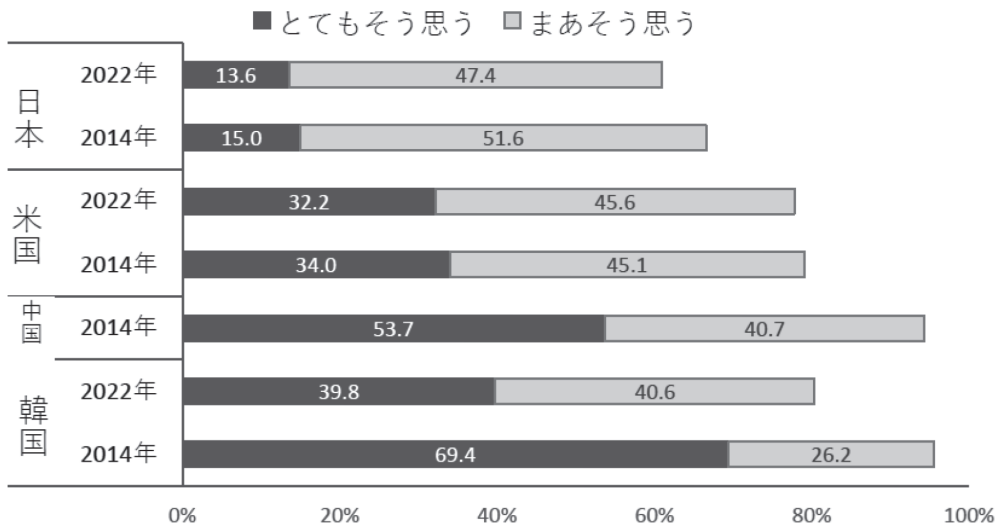
2018年：高校生の留学に関する意識調査（国立青少年教育振興機構）

2014年：高校生の生活と意識に関する調査（国立青少年教育振興機構）、以下同様。

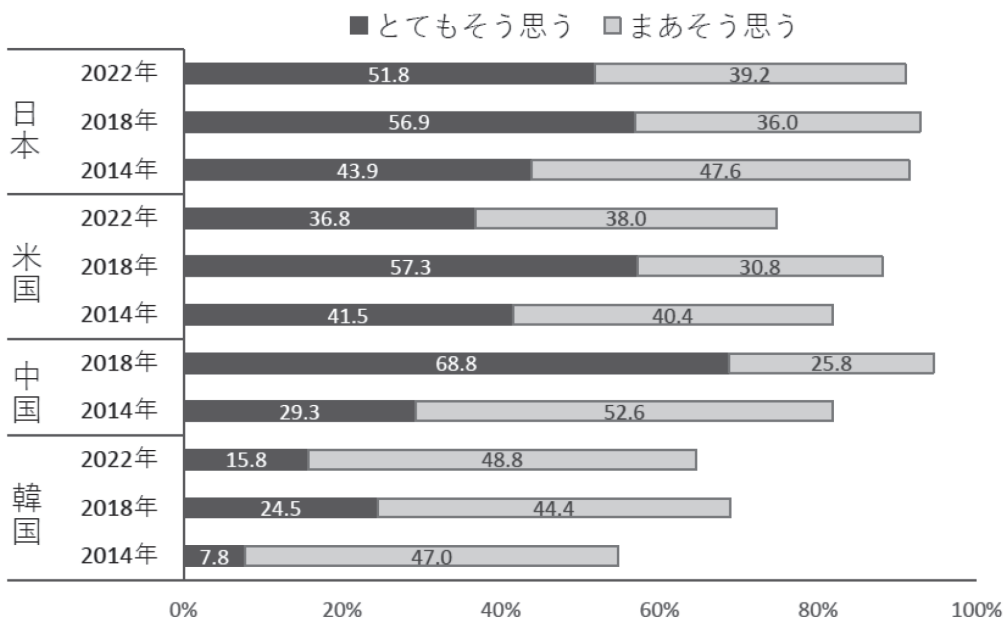
▼資料 2 「今の自分が好きだ」



▼資料 3 「自国（日本、米国、中国、韓国）は競争が激しい社会である」



▼資料 4 「自国（日本、米国、中国、韓国）で暮らすことに満足している」



設問 2 次の指示にしたがって、あなたの考えを 600 字以内で具体的に論じなさい。

以下に示す文章（資料 5）は、調査結果に対して研究者が述べた「高校生が持つ将来へのイメージと就労観」という考察の一部である。この文章を読み、「今後、日本の高校生がより良い将来へのイメージを持てるようになるためには、どのようなことが必要だと考えるか」について、あなたの意見を具体的に説明しなさい。なお、設問 2 は、資料 5 で研究者が述べていることを参考にしながら、あなたが設問 1 で考察した内容と関連づけて論述すること。

資料 5：研究者による「高校生が持つ将来へのイメージと就労観」という考察からの抜粋

日本の高校生は労働だけを重視しているのではなく、むしろ仕事よりも趣味や自由な時間を大切に、のんびり生活していきたいと考える割合が多い。こうした若者のあり方は、社会学者の豊泉周治氏が指摘する「コンサマトリーな生き方（未来の目標実現よりも、今現在の満足に関心を持って価値をおくこと）」を志向する若者像とも結びつくものであり、同時に豊泉周治氏が指摘する、社会に対する無力感といった課題にも当てはまっているように思われる。

日本の高校生は「日本の将来は明るい」とも、「社会は自分の力で変えていくことができると思う」とも考えていない。また、社会に貢献するような活動をしたところで収入が増えるとも考えていないことから、仮に社会に影響を与えるような活動ができたところで、それを評価されるとは思っていないことが示唆される。仕事における自己裁量の大きさが「社会」への意識に結びついていないことも踏まえれば、日本の高校生が考える「社会」への関わり方は、自分で主体的に考え、関わろうとするものではなく、事前に関わり方を決められている可能性がある。むしろ、事前に定められた方針等に従い、その中で貢献をしていくイメージが持たれているのではないかと考えられる。

また、日本の高校生が特に強く抱えている将来への不安については、就労関係だけでなく日常的に感じる様々な場面が不安に結びついていることが示されており、社会状況や生活環境から不安を感じやすい状況に置かれていることが危惧されるが、具体的に何が不安に結びついているのかは今回の調査結果からは明らかにされていない。今後さらなる検討が必要である。

出典：国立青少年教育振興機構青少年教育研究センター（2023）「高校生の進路と職業意識に関する調査報告書—日本・米国・中国・韓国の比較—」

総合型選抜 10 月入試

【小論文】（試験時間：60 分）

以下の文章は、『熟達論』（為末大、新潮社）において、「身体を介した言葉」について述べられたものである。これを読み、問いに答えなさい。

（中略）そもそもすべての言葉は近似イメージを引き起こすものでしかない。本当の意味で「それそのものを指し示す」ことは不可能なのだ。これは地図と現実の地形の関係に似ている。例えば「日本地図」は「日本」を縮小したもののだが、日本の地形を過不足なく相手に伝えるなら日本の地形そのものを伝えるしかなくなり膨大な情報量が必要になる。言葉も地図と同じように、現実の特徴を比喩的に集約したものだ。私は初めてのオリンピックの九台目のハードルで足をぶつけて転倒している。だが、いくら言葉で「シドニーオリンピックの四〇〇メートルハードルの予選のレーンの九台目のハードル」と説明してもそれがどんなものかほとんどの人にはわからない。「あの九台目のハードル」を指し示して伝える言葉は、いくら探してもないのだ。一方で私は「あの九台目のハードル」と一言聞くだけで、自分の脚がハードルにぶつかり転倒して地面にうつ伏せた状態から周囲の選手が私を追い抜いていく風景まで、自動的に思い起こされる。同じ「冬」という言葉を使っても、雪国で育った人と、南国で育った人では想起するものが違う。その言葉が引き起こすイメージは体験によって違うのだ。

言い換えれば体験を積み重ねていくことで、言葉は豊かに変化し、その人でしかわからない意味を含んでいく。私たちはくっきりとした輪郭の誰にとっても同じ意味をもつ言葉をやりとりしているのではなく、近似のイメージを引き起こすきっかけをやりとりしているのに過ぎない。

では、熟達プロセスでの言葉はどのように選んでいけばいいのだろうか。なんの体験も思い出も含まない単語は、記号に過ぎない。その言葉が持つ広がりや奥行き、言葉を投げかけた時に波紋が広がる感覚は、身体的な実感で得られる。自分の身体を介して得た言葉は、自分にとって確信に近い実感があるからだ。先述したように「乗り込む」感覚はスプリンターのみならず二足走行をする人間にとって、重要な感覚だ。一度この感覚を体験すると、この言葉を聞くだけで身体がその感触を思い浮かべる。一度身体的になれば、自転車に乗った瞬間に少しサドルが沈んで反発する時や、車のブレーキを踏んでその感触が股関節に返ってくる時や、ボールが目の前で弾む時などにも乗り込む感覚が想起される。

言葉は先人の感覚を保存するものでもある。型の伝承も言語を介してなされることが多い。昔は画像で保存するテクノロジーがなかったことも影響しているが、大きな理由の一つに映像は表現された姿しか残せないことがある。言葉は表現された姿だけではなく、どこに注意を向けながら行うかなど感覚の部分も含んでいる。言語は曖昧であるがゆえに、言葉が波紋のように広がるのだ。

一旦体験した技能でも、うまく再現できなくなることがあるが、その時には、自分なりに鍵となる言葉で感覚を思い出すことができる。言葉は感覚にくさび楔を打つようなものでもある。その時の言葉は正確な定義通り使われていなくても構わない。その言葉がきっかけとなり動きが生み出され連動するのであれば、どんなものでも良いのだ。

出典：為末大（2023）『熟達論：人はいつまでも学び、成長できる』新潮社

設問 1 著者の伝えたいことを 200 字以内で要約しなさい。

設問 2 本文では、「言葉が持つ広がりや奥行き」について述べられている。この内容を踏まえ、体験を介して言葉が広がったあなた自身の経験を挙げ、200 字以上 300 字以下で説明しなさい。

設問 3 文中で「一旦体験した技能でも、うまく再現できなくなることがあるが、その時には自分なりに鍵となる言葉で感覚を思い出すことができる」と述べられている。これに基づいて、健康やスポーツの分野において、言葉を通じて他者を援助したり指導する際、どのように言葉を使うことが効果的であると考えられるか、具体例を挙げ、200 字以上 300 字以下で説明しなさい。

●総合型選抜 12月入試

【小論文】（試験時間：60分）

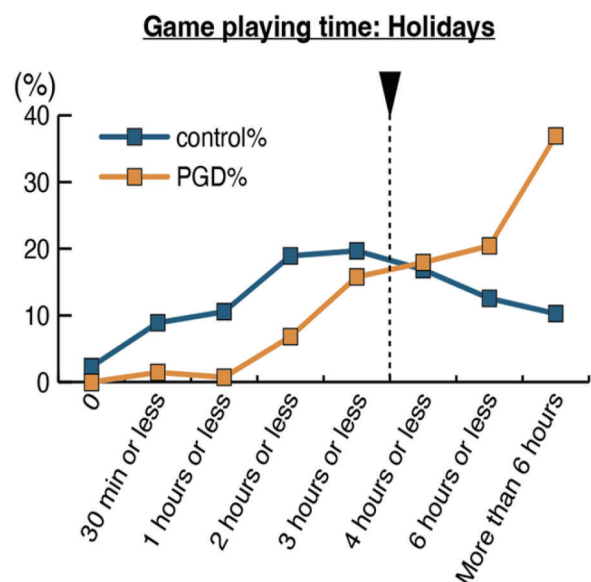
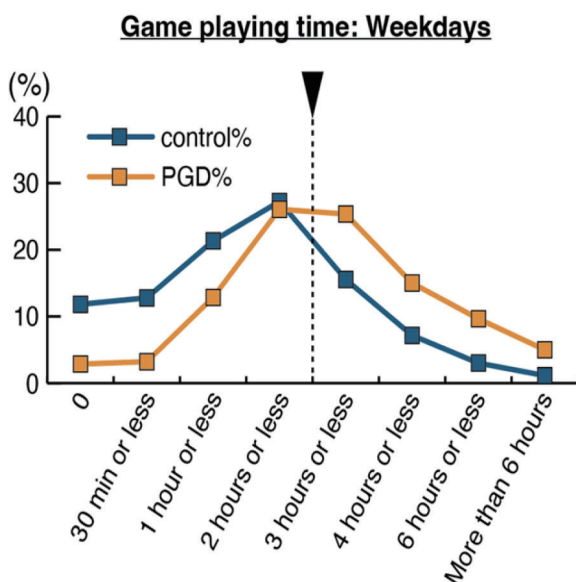
アルコールや薬物、スマホやゲーム、SNS、ギャンブル、などの物質や行動に対して、やめたくてもやめられない（コントロールできない）状態を依存症といいます。依存症と関連する以下の記事と図を読み、設問1・設問2に答えなさい。

依存症は、一般的なイメージでは“本人の心が弱いから”依存症になったんだ、と思われがちですが、依存症の発症はドーパミン^{注1}という脳内にある快楽物質が重要な役割を担っています。アルコールや薬物、ギャンブルなどの物質や行動によって快楽が得られます。そして、物質や行動が繰り返されるうちに脳がその刺激に慣れてしまい、より強い刺激を求めるようになります。その結果、物質や行動がコントロールできなくなってしまう病気なのです。

また、依存症は「孤独の病気」とも言われています。例えば、「学校や職場、家庭などでうまくなじめない」といった孤独感や「常にプレッシャーを感じて生きている」、「自分に自信が持てない」などの不安や焦りからアルコールや薬物、ギャンブル、スマホ、ゲーム、SNSなどに頼るようになってしまい、そこから依存症が始まる場合もあります。さらに、依存症は「否認の病気」とも言われており、「自ら問題を認めない」ため、本人が病気と認識することは困難です。一方、家族はアルコールによる暴力やギャンブルによる借金の尻ぬぐいなどに翻弄され、本人以上に疲弊するケースが多くみられます。

ほとんどの場合、依存症の当事者は、自分は依存症だと気づくことはできません。そのため、明らかに問題がある状態であっても、やめようとするばやめられる、あの人に比べたら大丈夫という発言をし、その問題に向き合えないケースが多いとされています。また、隠れてやっているのにもうやめたと嘘をついたり、もうやらないという約束を破ったりしてしまうのも依存症の典型的な症状です。本人も自分の意志ではやめられない病気になっているということを自覚できていないのです。

注1：ドーパミンは快感や幸福感、やる気、意欲、運動調節などに関連する脳内ホルモンの1つです。新しいことにチャレンジしたり、楽しいと思う活動をしたり、夢中になっている時に分泌が増えることが知られています。



PGD：potential gaming disorder（潜在的にゲーム障害のリスクのある群）

control：対照群（PGDの基準を満たさない群）

min：minuteの略

or less：以下

図2

設問 1. 記事を読んで、身体面、心理面、社会・環境面から依存症の方への支援として有効と考えられる方法について、根拠を示しながら具体的な方法を提示して 500 字以内で論じなさい。

設問 2. 図 1・図 2 は、日本の小学 4 年生から高校 3 年生（10 歳から 18 歳）の 5900 人を対象として行われた、ゲームの使用に関する研究結果を示したものです。図から読み取れることを述べ、そこから考えられる有効な支援について、記事も参考にしながら具体的な方法を提案し 300 字以内で論じなさい。

出典：

厚生労働省 依存症対策ホームページより抜粋・一部改変

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000070789.html>

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000149274.html>

Yamamoto, N., Morimoto, Y., Kinoshita, H., Kumazaki, H., Honda, S., Iwanaga, R., Imamura, A., & Ozawa, H. (2022). Game-related behaviors among children and adolescents after school closure during the COVID-19 pandemic: A cross-sectional study. PCN reports : psychiatry and clinical neurosciences, 1 (3) , e37. <https://doi.org/10.1002/pcn5.37>

●学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試）

【小論文】（試験時間：60 分）

平均寿命とは「0 歳における平均余命」のことであり、健康寿命とは「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」のことである。日本人の平均寿命と健康寿命には約 10 年の差がある。フレイルとは、日本老年医学会が 2014 年に提唱した概念で「Frailty（虚弱）」の日本語訳であり、高齢者の健康な状態と要介護状態の間にある「虚弱」状態である（図 1）。

設問 1

図 1 と図 2 を解釈し、フレイルの分類と特徴を説明せよ（200 字以内）。

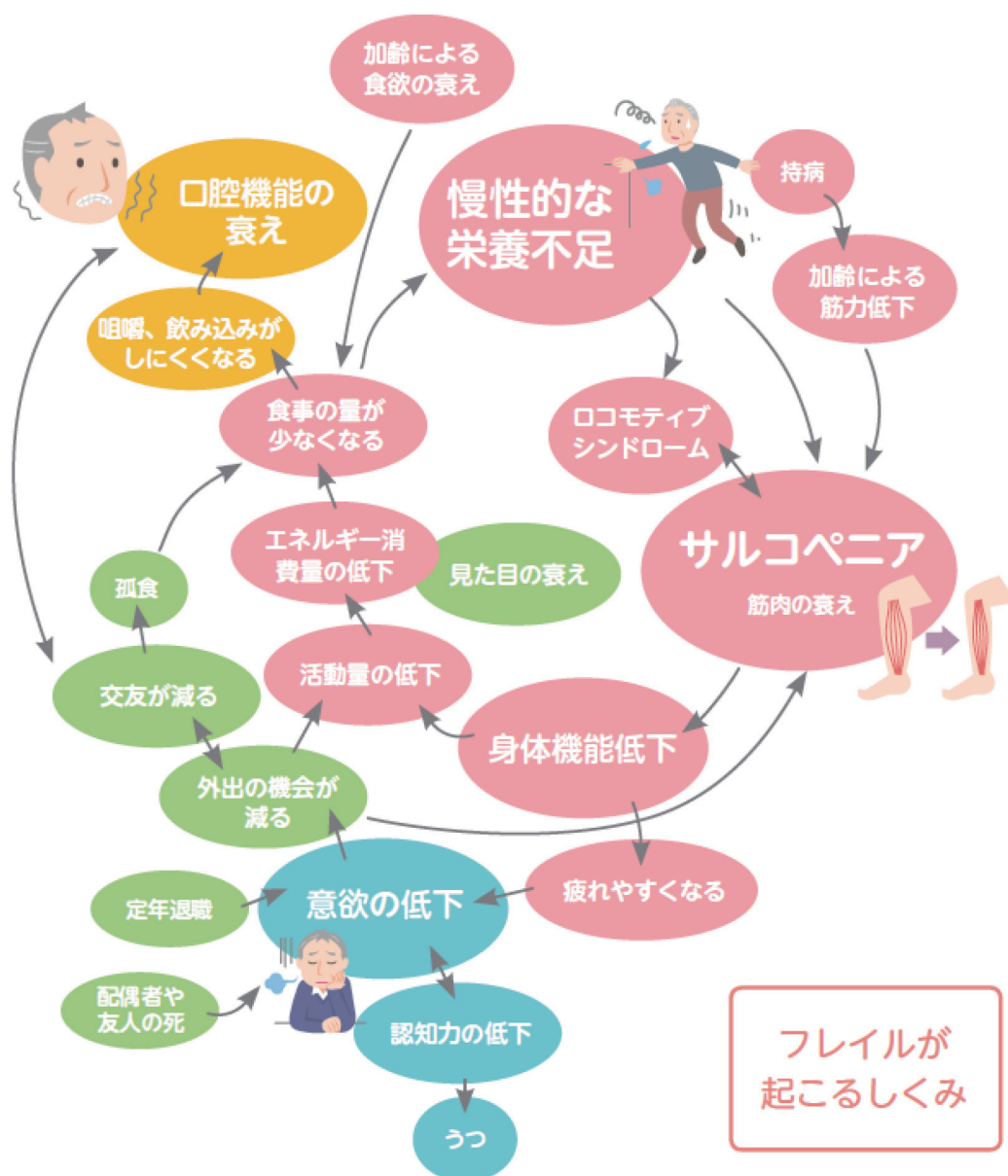
設問 2

フレイルを予防し、健康寿命を延ばすために、健康・スポーツ心理学科の 3 本柱とカリキュラム（具体的な科目）に言及したうえで、学科の学びに基づいて心理学の立場から貢献できることを述べよ（600 字以内）。

図 1 フレイルの特徴



図2 フレイルが起こるしくみ



サルコペニア：加齢による筋肉量の減少および筋力の低下

ロコモティブシンドローム（運動器症候群）：骨、筋肉、関節、神経などの運動器の障害のために移動機能の低下をきたした状態

出典：

健康・体力づくり事業財団（2019）．サルコペニア・フレイルを予防して健康寿命をのばそう 健康・体力づくり事業財団 Retrieved October 30, 2024, from <https://www.health-net.or.jp/syuppan/leaflet/index.html>

●スポーツ特待生入試

【小論文】（試験時間：60 分）

以下の文章を読んで、次の設問に答えなさい。

スポーツにおけるリーダーシップは、これまで主にコーチの役割に焦点が当てられてきた。しかし近年、アスリート自身によるリーダーシップがチームの結束、満足度、帰属意識、動機づけなどにポジティブな影響を与えることが明らかになり、その重要性が注目されている。

一般的に、スポーツチームではキャプテンなどの公式なリーダーシップ役割に重点が置かれがちである。しかし実際には、公式な役職に加えて、チーム内で非公式にリーダーシップを発揮するメンバーも存在する。Loughead らは、アスリートのリーダーシップを「チーム内で公式または非公式のリーダー的役割を果たし、共通の目標達成に向けて他のメンバーに影響を与えるアスリート」と定義している。この定義は、リーダーシップの役割が公式・非公式を問わず、チーム全体において多様に発揮され得ることを示唆している。

特に注目されているのは、複数のアスリートがリーダーシップを分担する「共有型リーダーシップ（Shared Leadership）」のアプローチである。このアプローチでは、リーダーシップを特定の一人に固定するのではなく、複数のメンバーが協力してリーダーシップを発揮することが重視される。このようなリーダーシップは、従来の「トップダウン型リーダーシップ」、すなわち一人のリーダーが指揮を執るモデルとは異なり、チーム内の相互作用と協力を基盤としている。

設問 「共有型リーダーシップ」がスポーツチームにおいてどのようなメリットをもたらすか、そしてその実現にはどのような課題があると思うか、あなたの経験に基づく具体的な事例や出来事を挙げながら、あなたの意見を 600 字以上 800 字以内で述べなさい。

●編入学試験

【小論文】（試験時間：60 分）

現代社会では、子どもの体力低下が課題となる一方で、個々の多様性への配慮も求められています。以下は、子どもの健康づくりに関する架空の事例です。このような場面に直面したと想定してください。

あなたは、地域の子供たちと一緒にスポーツ活動をするボランティア団体の一員として活動しています。イロハ小学校では、数年前に比べて在学生の体力・運動能力が著しい低下傾向にあることが分かりました。そこで、イロハ小学校では、4～6年生の子どもたちの心身の健康の維持・増進を図るために、週3回、放課後60分のスポーツ活動プログラムへの参加を義務付けることを検討しています。

あなたが所属するボランティア団体に協力要請があり、協力するべきか否かをメンバー全員で協議することになりました。その協議の中でボランティア団体の代表を務めるAさんは、『継続的なスポーツ活動は、子どもたちの心身の成長を促す重要な機会であり、実施することで体力・運動能力を向上させることができる』と発言し、協賛に賛成を示しました。しかし、ボランティア団体の副代表を務めるBさんは、『スポーツが嫌いな子どももだっているはずで、スポーツ活動プログラムへの参加が義務化されれば、それ自体が子どもたちのストレスとなる。これをきっかけに身体を動かすことへの苦手意識がさらに高まれば、心の健康にも悪影響を及ぼすだってあるんじゃないか』と発言し、協賛に否定的な意見を示しました。

この状況において、あなたはどのように対応するべきだと考えますか。『スポーツ活動の義務化のメリット・デメリット』『子どもたちの多様性への配慮』『具体的な対応方法の提案』に触れながら、800字以内であなたの意見を述べなさい。なお、解答にあたっては、具体的な事例や経験に基づいて論じることが可能です。また、提案する解決策は、実現可能性を考慮したものとしてください。

●一般選抜 D 日程入試

【小論文】（試験時間：60 分）

以下の文章は、世界中のスポーツ指導者のみならず、ビジネスの世界でもリスペクトされているジョン・ウッデン^{注1}の人生哲学が書かれた「まじめに生きるのを恥じることはない」から引用したものです。

この文章を読んで次の問題に回答して下さい。

注1 ジョン・ウッデン（John Robert Wooden1910～2010）

UCLA バasketボールチームを10度の全米制覇に導いた。「20世紀最高の指導者」と謳われているウッデンの『成功のピラミッド』はスポーツの世界のみならず、ビジネスの世界でも広く浸透している。

著作権使用許可が下りなかったため、問題文および設問を掲載しておりません。
なお、問題文と設問はジョン・ウッデン著「まじめに生きるのを恥じることはない」の一部を引用して出題しています。（問題文：1,200 字）

●出題意図・解答例

総合型選抜 9月入試【出題意図】

人々のウェルネスや健康増進を図っていくためには、現状の理解とそれに基づく改善策の提案力が求められる。ことに多種多様な情報が溢れる今日においては、示された情報を正しく理解・解釈するとともに、他者の見解も参考にしながら、独自の態度を明確にしていく姿勢が肝要だといえる。本問は、受験生と同世代である高校生の意識調査結果を題材として、図の適切な読解に基づいて課題の指摘を行う資料解釈力と、自身が提起した課題に対して他者の見解も参考にしながら具体的な改善プランを提案するという、論理的思考力と説得的な表現力を問う出題である。

設問1では、他国の高校生と日本の高校生を比較する4つの図を参照しながら、日本の高校生が抱える特徴や課題を指摘することを求めている。日本の高校生は国に対する意識と自己評価の両面において、他国の高校生とはやや異なる特徴的な回答傾向を示しており、これらの点を総合的に勘案して、どのような特徴や課題を具体的に発見し、指摘できるかを問う。設問2では、自身が指摘した課題と、他者による考察内容の双方を参照しながら、「高校生がより良い将来イメージを持てるようになるための改善方法」を具体的に提案することを求めている。これらの設問は、「唯一の正解がない」問いであると同時に、資料を踏まえた客観的思考と論理を求める点で、自身の「単なる感想や主観的意見」を述べるだけでは足りない設問であり、(a) 自ら課題を見つけ、(b) 参考意見をもとにしながら、(c) 合理的な課題の改善案を提示するという一連の思考プロセスを問うことを意図している。

総合型選抜 10月入試【出題意図】

健康・スポーツ心理学を学び、社会で活かしていくためには、ノウハウ的知識を吸収するばかりではなく、体験や経験、実践を通じたより本質的な知識も習得する必要がある。言い換えるならば、抽象的で多義的な概念に触れ、それを自身の体験と関連づけながら理解し、さらには様々な場面や状況に応用していく能力や態度が求められる。本問では、「言葉と身体との関わり」について、元トップアスリートが論じた文章を読みながら、その複雑性やある種の曖昧さを理解し、自身の振り返りや社会的な場面での応用について、論理性や一貫性を持って述べる力を問うものである。

設問1では、言葉と身体との関わりを論じた文章を読みながら、ポイントを的確に抽出してまとめられるかを問う。設問2では、本文で述べられている「言葉が持つ広がり」と奥行きについて、この意味するところを理解し、自身のそれまでの経験や体験と関連付け、論理的に述べられるかを問う。設問3では、「一旦体験した技能でも、うまく再現できなくなることがあるが、その時には自分なりに鍵となる言葉で感覚を思い出すことができる」という内容に基づき、他者を支援する観点から、効果的な「言葉」の使い方を発想し、論理的に説明できるかを問う。

総合型選抜 12月入試【出題意図】

人々のウェルネスを維持・向上させるためには、身体面だけではなく、心理面やいち社会・環境面から幅広くアプローチすることが求められる。昨今、ゲームやスマホなどの使用に関するネット依存やギャンブル依存、アルコールを含む薬物依存などの様々な行動や物質への依存が社会問題となっており、依存症患者や依存症が疑われる者が増加している。この依存に関する問題についても、身体面、心理面、社会・環境面からのアプローチが必要であることが知られている。

本問では依存症に関連する記事と図を読み、依存症の原因を読解し、その支援の方法を考え提案するという論理的思考力と創造性を問われる。日ごろから社会問題に関心・疑問を持ち、それに対する改善策や対応策を考えているかを問われる問いでもある。

設問1では、依存症の原因に関する記事を読み、そのポイントを的確に把握した上で、有効と考えられる支援の方法について具体的な方法を含めて提案することを求める。

設問2では、図1・2に潜在的なゲーム障害の人とそうではない人の平日と休日のゲーム使用時間が示されている。英語で示された図を正しく理解し、そこから導き出された問題に対して有効な支援策を論理的かつ具体的に提案することが求められる。

いずれの設問においても、論理的思考力に加え、普段から様々なことに問題意識を持ち、具体的に課題を発見し、対応策を思考できるかが問われる。

学校推薦型選抜（公募入試／指定校入試）【出題意図】

健康・スポーツ心理学科のアドミッション・ポリシーに合致しているか、本学科のカリキュラムに興味関心をもっているか、4年間で具体的に何を学び、どのように社会に貢献しようと考えているのかについて、論理的に説明できるかどうかを問う。

設問1 図1と図2に基づいてフレイルの概念と特徴を正しく理解し、解りやすい文章で表現できるかどうかを確認する。

設問2 健康心理学、スポーツ心理学、ポジティブ心理学が学科の学びの3本柱であること、具体的な科目名について知っているかどうかを確認する。そのうえで、個人的経験に基づくのではなく、学科の学びに基づいてフレイルを予防し、健康寿命を延ばすために心理学の立場から貢献できることを論理的に述べられているかどうかを評価する。動機づけ、コミュニケーション、運動、スポーツ、ストレス、抑うつ、認知機能などに言及しながら解答してほしい。

スポーツ特待生入試【出題意図】

スポーツ特待生として入学した場合は、大学のスポーツチームでの活躍が期待されるため、「リーダーシップ」に対する理解と、その実践が求められる。そのため、大学スポーツチームにおけるリーダーシップの理論と実際を結びつけ、具体的な事例を基に自分の意見を形成する能力を問う。また、単にメリットを挙げるだけでなく、それを実現するための現実的な課題を考える思考能力や、課題解決のための実践的な視点を持つかを問う。

編入学試験【出題意図】

現代社会における子どもの健康課題、特に体力・運動能力の低下は喫緊の課題の一つとなっている。この課題に対する解決策として、スポーツ活動の奨励が検討されているが、そこには二つの重要な観点がある。一つは「身体の健康」と「心の健康」という二つの価値の両立であり、健康増進策がもたらす正負両面の影響を考慮する必要があるという点である。もう一つは、対象となる子どもたちの多様性に配慮しながら、集団としての利益と個人の権利をどのように調整するかという点である。

本問題では、これらの課題に対する受験生の関心の高さや認識、そうした課題の本質を理解した上で解決策を提案する能力、それらを分かりやすく表現する能力などをみる。

一般選抜 D日程入試【出題意図】

本学科の求める学生像として「自他の心身の健康を守り、育てることに興味・関心のある人」が挙げられている。大学生活における4年間は、卒業後も成り得る自分を目指し続け、成長を続けられる社会人となる土台を育む期間である。そこで、自身の経験を他者の考えを踏まえながら、自分なりの考えに基づいて表現することのできる出題を意図した。また、D日程の受験生は他大学の受験経験があることが予想される。『成功』『努力』『失敗者』などのキーワードから、自身の大学生活をどのようにデザインしているのかを、論理的に表現することができる出題を意図した。